




審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3005 号	氏名	鍋田 雅和
審査担当者	主査	山下 典雄	
	副主査	安部 尊思	
	副主査	光岡 正浩	
主論文題目： Comparison of physician-staffed helicopter with ground-based emergency medical services for trauma patients (外傷患者に対するヘリコプター救急医療と従来型病院前救護との比較)			

審査結果の要旨 (意見)

約 20 年前に本邦で医師によるヘリコプター救急医療いわゆる“ドクターヘリ”が導入され、その意義について種々検討がなされているが、外傷患者において医師による早期治療介入の重要性については深く検討されていなかった。本論文において、ドクターヘリでは受傷から救命センター到着までの時間は近傍からの救急隊による搬送に比べ時間を要するものの、受傷から医師の接触（治療開始）までの時間を短くし、来院時の生理学的徴候や 24 時間死亡率・院内死亡率は同等である結果となった。すなわち、半径約 50km 圏の広範囲で生じた重症外傷患者を救命センターの近隣から救急車で搬送される患者と同等の治療機会を与える可能性を示唆した初めての論文として高く評価されるべきものであり学位論文として相応しいと考えられる。

論文要旨

救急隊が病院前で施行可能な処置は制限されており、医師によるヘリコプター救急医療（以下 HEMS）は有用と考えられる。これまで HEMS と外傷患者の生存率改善との関連を示唆する研究が報告されているが、医師による早期治療介入の重要性について論じた研究はない。本研究は、従来の救急隊による病院前救護（以下 GEMS）との比較により、地理的に不利とされる遠隔地域における HEMS の意義を明らかにすることを目的とした観察研究である。2014 年から 5 年間に久留米大学病院高度救命救急センターに搬送された外傷患者 1674 名の診療録から、injury severity score 16 点以上の成人重症外傷直入例を抽出し、搬送手段により HEMS 群と GEMS 群に分けて検討を行った。年齢、性別、生理学的および解剖学的重症度による傾向スコア分析を行い、両群間の死亡率、受傷現場から病院までの距離と時間を比較した。適格症例は 317 例（HEMS：202 例）で、24 時間死亡率（8.7% vs. 5.8%, オッズ比 1.547(95%CI 0.530-4.514)）と院内死亡率（14% vs. 14%, オッズ比 1.000(95%CI 0.465-2.152)）に差は認めなかった。現場からの距離は HEMS で遠く、受傷から病院到着までに時間を要したが、HEMS は早期の医師接触により遠隔地域の成人重症外傷患者に対して、3 次医療施設の近隣から救急車で搬送される患者と同等の治療機会を与える可能性が示唆された。